

平成27年度 長岡市・三島郡国語部 活動報告

部長 中林 郁郎

1 研究主題

言語感覚を豊かにし、読みを深める授業

2 研究の概要

(1) 研究の方針

- ア 会員相互の実力を高めるために主体的に取り組むものであること
- イ 焦点を絞った、毎日の国語教室に生きる研究であること
- ウ 会員相互が連帯感を持って取り組み、一部の人の研究にならないようにすること

(2) 研究の内容

- ア 研究主題に基づく授業研究
- イ 国語力伸長のための指導法研修

(3) 取組の内容

- ア 授業研究会
 - ・10月29日(木) 太田中学校
 - ・3年 授業者：丸岡昭子教諭
- イ 協議会・全体会



3 研究の実際

(1) 授業研究会

本授業は、長岡市三島郡国語教育研究会の授業研究会及び新潟県中学校教育研究会の中越地区国語教育研究発表会を兼ねて公開されたものであった。「ファシリテーションで読みを深める授業」を研究テーマに設定し、主体的な学習、協働的な学習ができるように、学び合う場面づくりを行う上で、ファシリテーションをどのように活用していくか等を研究のねらいとした。

本単元では、「松尾芭蕉ってどんな人だったのだろうか？」を、単元を貫く課題に設定し、「学び合い」活動を取り入れ、複数のファシリテーションの手法を使い分けながら、課題解決を図る学習を構想した。本時では、「芭蕉は、なぜ「閑かさや…」の句が最もよいと考えたのであろう。」を課題に設定し、グループごとにKJ法でまとめた考えを、ジグソー学習法により交流させ、お互いの考えを伝え合うことで最終的な結論へと至らせた。

(2) 協議会・全体会

「学び合う国語の学習場面をつくるためにファシリテーションをどのように活用するか」という協議題に基づき、実際に参会者によるファシリテーションを活用した協議を行った。「ファシリテーションによる話し合い→ポスターセッションによる交流→各自の実践課題の設定」という流れにすることで、拡散と収束のある協議会となった。

中越教育事務所学校支援第2課・吉井純子指導主事からは、生徒個々の中に「思考の深まり」が起き、思考の深まりがあったことを生徒が「自覚」し、何がよかったから思考を深めることができたのか「メタ認知」できるような授業づくりを心掛けるよう、御指導をいただいた。

4 成果と課題

本研究への取組と当日の授業において、ファシリテーションの活用により生徒の発言や思考が促されたこと、生徒の発言や思考の過程を可視化するために有効なツールとその活用法を提案することができた。また、生徒の主体的な学びにつながる有効なファシリテーションを深化させていくこと、そのために教師自身がファシリテーションに精通している必要があることが今後の課題として挙げられる。